

# 長畝ふるさと通信

【2017年6月号】

## ■ 6月は少雨、低温…やや生育遅れ

昨年より10日も遅い梅雨入りとなりました。雨も降らず、朝晩はとっても寒い。そのせいでコシヒカリの苗は平年よりも生育不良気味です。6月20日に発表された普及センターの稲作生育速報によれば、草丈は32センチ(前年43センチ)、茎数は㎡あたり405本(前年478本)、葉数



8.6枚(前年8.7枚)となっており、前年から比べると脆弱な苗姿がわかります。例年なら中干しをしてやると、葉色がぐっと濃い緑色になって、一雨ごとに苗がずんぐりとした姿に変身していくのですが、今年の苗姿はちょっと頼りない「痩せオタク」的な感じです。今後のお天気に注意しながら見守っていきたいと思います。

## ■ 佐渡の田んぼでアートです？東京農大生と草刈りアート作成



6月12日から一週間、東京農大の学生20名が農業実習で佐渡を訪れました。組合では3名の学生を受け入れ、毎日溝切や田んぼの雑草取りなどの泥んこ実習をしてもらいました。東京農大の実習受け入れも今年で10年目となり、10年前とは学生の質も変わったなあという実感(大人と無理になじもうとしなくなった気がする…)。自分が年をとったせいかも…。

田んぼの土手に記念の草刈りアートを作成してみました。いきなり設計図もなしに一文字づつ

分担して「生きものとそだつお米」と竹とビニール紐で文字の輪郭をデザインし、余分な部分の草を刈り上げました。約1時間、奮闘した結果はご覧の通り。白いビニール紐で文字の輪郭がわかるので「何とか読める」状態に仕上がってはいますが、いつまでこの状態が維持できるやら・・・  
実はこの土手の前にはトキをデザインした「田んぼアート」もあるのですが、現時点ではまだ苗の生育が不十分で「絵」になっていません。7月号ではその出来栄をご紹介しますと思います。お楽しみに！

## ■ 6月の出来事



● JA佐渡が佐渡の畜産振興のために立ち上げた「佐渡和牛繁殖支援施設(CBS)」に鹿児島から30頭の子牛が入ってきました。今年中にあと60頭入れて90頭にするそうです。3年間かけて250頭まで拡大していく構想ですが、そのためにはエサ供給が大事。組合では施設の地元生産者として「WCS醗酵粗飼料」の提供を積極的に行っていきたいと考えていますが、そのためには稲穂がつく前に刈り取って(青刈り)しまわなければなりません。コメ生産者が牛のために稲作するっていかがなものでしょうか・・・。

● 6月11日(土)朝7時から「生き物調査」を行いました。地域の子供たちも参加して、ラインセンサス方式(一斉に田んぼを歩きながら、どんな生き物がいるか見て回る)で調査しました。気温が低く生き物たちの活動も停滞気味で、多くの生き物を見ることはできませんでしたが、頭上を2羽のトキが舞ったときはみんな大喜び。やっぱり鉄板は欠かせませんな。



● 6月24日、トンボの羽化現場です。梅雨入りも遅かったが、羽化もかなり昨年よりも遅くなりました。朝晩の気温の低さが原因だと思います。いつもなら、一斉に田んぼ中からバージンフライが見られるのですが、今年はまばらです。そういえば、6月末になっても蝉が鳴きません。微妙な気候変動を感じ取っているのでしょうか。



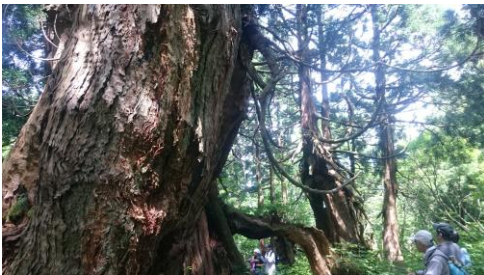
反対に果実関係は作柄がよろしいようで・・・。おけさ柿もリンゴも平年よりも着果量がかかなり多く、豊作の予感がします。現在最盛期のサクランボもご覧の通り。早朝5時から近くの農園の収穫を手伝うなど、眠い日々を過ごしています。



### ■ 佐渡の天然杉を訪ねて・・・

新潟大学のご厚意で、佐渡の北部「大佐渡山脈」の主稜線付近に群生する天然杉を見に行くことができました。大学の演習林なので、一般の入山はかないませんが、特別に案内していただきました。ふもとから車に揺られること約1時間、山の稜線まで登っていくとそこには年間を通して季節風や霧、風雪など厳しい環境下で特異な形状をした樹齢300年も経つ杉が次から次へと姿を現します。霧がかった風景の中にあってそれは正に「異形」であり、「芸術」でもありました。写真はほんの一例ですが、機会があればぜひご紹介したいと思います。まだまだ知らない佐渡がそこにありました。

### ■ 主要穀物種子法が廃止に！ コメはどうなる？



主要農産物種子法とは簡単に言うと、稲・麦・大豆の原種を各都道府県が管理・保存するという法律です。政府は「種子法の存在が民間企業の参入を阻害し、健全な競争の弊害になり、ひいてはそれが農業界をダメにする」としてこの法律をこっそりと廃止してしまいました。競争があった方が経済は活性化するといいますが、それを全てに当てはめるのはいかがなものでしょうか。民間参入すれば「売れる種子」しか必要ではなくなり(コメで言えばコシヒカリ偏重に?)、それぞれの地域で守ってきた「在来種」がなくなる恐れもあるのではないのでしょうか。食べ物の地域特性がなくなってしまうのは、地域の文化や環境までもなくなってしまう、「多様性」が失われてしまうさみしい国になるような気がします。政府は国際社会に貢献するなど「外向き」な政策ばかりが目立つようです。せめて農作物の「お国(郷土)自慢」で農業が活性化する国になってほしいと願っています。もう少し勉強してこの問題を拡散していきたいと思っています。それが佐渡百姓の生きる道と信じて。